

第 23 回総会及び講演会

はじめに

去る 4 月 25 日(金)に行われました「第 23 回道央技術士委員会総会及び講演会」について報告します。

開催日：2014 年(平成 26 年)4 月 25 日
(金曜日)。

開催場所：ホテルウィングインターナショナル苫小牧。

時間：17:00～20:00

道央技術士委員会の総会は、室蘭と苫小牧で交互に開催されており、今年は、苫小牧での開催となりました。

講演会は、エコテック 1 代表 高田正志氏に「モンゴル国 IET(工業大学)の技術教育と日本式高専モデルコースの設置について」という演題でご講演いただきました。

その後、総会に移り、議題の審議の結果、幹事長の交代が承認され、新幹事長に田中雄太氏(建設、総監：㈱タナカコンサルタント)が就任しました。次に、北海道本部事務局次長井智典氏より技術士および技術士会の状況、第 40 回技術士全国大会(札幌)開催結果などについてご紹介いただきました。

その後、技術情報交換会を行いました。

参加者は 22 名でした。



講演会の様子

1. 講演会「モンゴル国 IET(工業大学)の技術教育と日本式高専モデルコースの設置について」

講師：高田正志氏 エコテック 1 代表



高田正志氏のご講演

概要：モンゴル国工業大学で講師として活躍された体験を交えて、モンゴルでの技術教育と日本の技術者の国際・社会貢献についての講演。

高田正志氏は、苫小牧工業高等専門学校電気工学科をご卒業後、日本軽金属、三井アルミ(ブラジル勤務)などに勤務されました。それらの経歴を活かし、モンゴル国工業大学で 3 週間ボランティア講師として活動されました。

モンゴルは、豊富な鉱物資源の採掘を中国・ロシアへ依存しているため、技術教育や技術移転の仕組みがなく、将来ナウル病(鉱物資源を売り尽くして破綻する現象)になると心配されています。そのため、自国での技術教育や技術による自立が急務となっています。

高専モデルクラス開校の経緯は、モンゴル文科省ガントルム大臣が高専の設置案を指示し、Institute of Engineering Technology(建築土木の私立大学・専門学校・職業訓練校)が参加を表明しました。それを受けて、モンゴルに高専を作る会(東京都立



通訳の Miss. オラナーさん、Miss. オトゴさん

高専：中西先生)が発足し、苫小牧工業高等専門学校および同窓会が協力するようになりました。

高専モデルクラスでは、学生の学習意欲は強いが、技術系教育が不足しています。工業高校は無く、教室や教科書が不足しています。教科書は無配布で、授業はもっぱら教師が板書したものを書き写す形態です。教師は大学出たての若い女性がほとんどで、実技などの専門知識が不足しています。今後、更なる日本の技術者の国際貢献が望まれます。



モンゴルの新聞とテレビに特集された高専モデルクラスの取り組み

2. 総会

(1) 議事

① 幹事長の交代

平成18年4月より前任者の補佐として5年間、平成23年4月より幹事長として3年間活動してきました高石富生(建設、総監：アルファ計画(株))に代わり、新幹事長として田中雄太氏(建設、総監：(株)タナカコンサルタント)が推挙され、満場一致で承

認されました。

② 事務局からのお知らせ

事務局より、平成26年度の行事活動予定(7月、11月の施設見学会・講演会、総会)と参加のお願い、新規会員勧誘のお願いがありました。

(2) 北海道本部事務局次長の挨拶

北海道本部事務局次長長井智典氏より、「技術士会及び技術士をめぐる最近の動向」(平成25年度技術士試験の結果、北海道本部・統括本部(理事会等)からの話題、技術士CPD登録証明書、総会委任状制度、第40回技術士全国札幌大会)についてのお話がありました。



北海道本部事務局次長長井智典氏のご挨拶

3. 技術情報交換会

当委員会会員であります苫小牧市副市長中野裕隆氏(上下水道、建設、衛生、環境、総監部門)の乾杯の音頭で技術情報交換会が開会されました。

講演会の内容についての話題、近況報告など、技術部門・世代・業種を問わず、会場全体で技術情報交換が活発に行われました。

最後に、新幹事長に就任された田中雄太氏(建設、総監：(株)タナカコンサルタント)の挨拶と締めのご発言を持って盛会の内に閉会いたしました。

おわりに

私、高石富生におきましては、至らないところばかりでしたが、会員皆様や本部事務局の方々に支えられながら長年にわたり活動させていただきました。

今後は微力ながらもさらに会の発展のために協力して行きたいと思っております。ありがとうございました。